

項目	診断の観点	診断の規 準	訪問 ○×	備 考	フォロー ○×	
学 校 経 営	教育目標・経営方針	県や市町村教育委員会の指導方針を踏まえた教育目標の設定	学習指導要領、「学校教育の指導方針」等を踏まえた教育目標等を設定している。	○		
		学校の特色や前年度の課題を踏まえた経営方針・重点目標の設定	目指す学校像・児童像・教師像を具体的な姿で示している。 学校の特色や前年度の課題を踏まえて重点目標等を設定している。 学校運営や教育活動を構造化・体系化してグランドデザイン等に示している。	○		
		経営方針や重点目標の共有と発信	学校経営方針や重点目標等を教職員が共有している。 重点目標等を、学校だよりやホームページなどで児童・保護者・地域住民等に発信している。	○		
	校務組織運営	重点目標等の達成に向けた取組	学校の課題や今日的な教育課題に対応するための組織をつくり、具体的に取り組んでいる。	○		
		学年や分掌間等の連携・協力体制	企画委員会や推進委員会等、連絡調整を図るための会議を定期的に行っている。	○		
	学校評価	学校評価の組織的な推進	学校評価委員会等を設置し開催している。			
			学校全体で組織的に学校評価を推進している。			
		学校評価の計画的な推進	学校評価の推進計画を作成し、計画的に推進している。			
		学校評価の目標設定	本年度の重点目標等の達成に向けた具体的な目標や方策を評価項目として設定している。	○		
		学校評価の活用と成果	学校評価をツールとして活用し、学校改善が進んでいる。			
		アンケートの活用	児童や保護者等を対象としたアンケート（授業評価を含む）を自己評価に適切に活用している。			
	学校関係者評価の実施	保護者等を含めた学校関係者評価委員会等を設置し開催している。	自己評価の結果を踏まえた学校関係者評価を実施している。	○		
			保護者や地域住民等に自己評価の結果を公表している。	○		
		学校評価の公表	保護者や地域住民等に学校関係者評価の結果を公表している。			
地域連携	地域連携	地域連携を推進するための組織を設けている。	○			
		学校、保護者、地域住民が当事者意識をもって熟議する場を設けている。	○			
		学校、保護者、地域住民が参画・協働して児童を育てる取組がある。	○			
		保護者や地域住民等に対して、「地域と共にある学校づくり」等の取組を情報発信している。	○			
危機管理	危機管理	具体的に対処するためのマニュアルを作成し、共通理解している。	○			
		避難訓練や安全意識高揚のための取組を計画・実施している。	○			
		食物アレルギー等を有する児童に対して、指導体制や緊急対応の体制を整えている。	○			
教 育 活 動	学習指導	各教科等の年間指導計画の作成と活用	学習指導要領に基づき、教育目標等を踏まえながら、各教科等の年間指導計画を作成し、活用している。	○		
		基礎的・基本的な内容の定着に向けた取組	基礎的・基本的な知識や技能の習得とその活用を図る取組を計画的に行っている。 指導方法や学習形態の工夫をし、児童が集中して取り組む授業を行っている。	○		
		自ら学び、自ら考える力を培う指導の工夫	問題解決を図る活動を取り入れた授業を行っている。			
		児童の学習状況の把握と適切な評価	各教科等の評価規準を作成している。 授業における児童の学習状況を把握し、適切に評価している。	○		
	生徒指導	重点課題の明確化及び教職員による指導体制	児童の実態を踏まえて重点課題を明確にし、継続的な取組を行っている。	○		
			配慮を要する児童に対して、教職員が連携して指導する体制を整えている。	○		
		教育相談の体制	指導や支援のできる教育相談体制を整えている。 家庭や地域、関係機関等との緊密な連携を図っている。	○		
	人権教育	県の「人権教育の推進についての基本方針」等を踏まえた人権教育の推進	児童や地域の実態を踏まえ、県の「人権教育推進プラン」に基づいて人権教育推進計画を立てている。 児童・保護者に人権意識を高める多様な取組を計画・実施している。	○		
	特別支援教育	特別支援教育の推進体制	特別支援教育を推進するための組織が整っている。 特別支援教育推進計画を立てている。	○		
	研究・研修	指導力向上や授業改善を図るための研究・研修体制	研究主題及び研究内容・方法を明確に示している。	○		
全学年で、研究授業・研究協議等を計画・実施している。			○			
資質向上のための研修の実施			今日的な教育課題や学校の課題に即した様々な研修を計画・実施している。	○		
当面する県の教育課題	規範意識の高揚	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。	○			
		「学校のきまりを守る」等について、具体的な取組を計画・実施している。 いじめに関して実態を把握するとともに、教職員が共通理解の下、いじめの防止・指導に取り組んでいる。 規範意識の高揚に向けて、家庭と連携して取組を進めている。				
		実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。	○			
体力の向上	体力の向上を図る取組	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。	○			
		体育科の授業で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。	○			
		体育科の授業以外で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。	○			
学習意欲の向上	学習意欲の向上を図る取組	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。	○			
		日々の学習指導の中で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。 家庭での学習習慣の定着に向けた具体的な取組を計画・実施している。				

<p>学校評価について(担当:吉川)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前任校長が昨年度末に行った学校評価を分析し、今年度のグランドデザインを作成した。 ・地域とのつながりが強い学校である。先日の全校集会で民生委員の皆さんを児童に紹介した。地域との活動を今年度も大切にしたい。 ・OJTを推進し、若手教員の育成を図りながら、教育活動を円滑に進めたい。 <p>○昨年度学級経営が困難であった学年の学級経営が、今年度は落ち着いてスタートしていた。</p> <p>○誰のためのグランドデザインなのか。学校経営の部分も盛り込んでもらいたい。</p> <p>○めざす学校像、子ども像、教師像を教職員全体で共有してもらいたい。</p>	<p>学習指導・研究研修について(担当:城野・前田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4回ある朝の学習時間のうち3回を国語の学習にあて、スピーチタイムを行っている。 ・総合的な学習の時間をWithタイムとして取組を進めている。 ・言語活動を充実させる指導方法について取り組んでいる。 ・昨年度は「書く」と「話す・聞く」の両面からアプローチしたが、どっちつかずになったので、今年は「話す・聞く」に重点を置いて取り組んでいる。 ・年に2回の校内研修を計画している。指導事項や評価についてよく学年間で話し合っているが、6年間を通した指導ということろまではまとめることができていないようなので、ぜひ学校として6年間を見通した計画や共通理解をもってほしいことを助言した。
<p>特別支援教育について(担当:城野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より個別の教育指導計画の作成を進めている。 ・特別支援教育のコーディネーター3名で、生活、アレルギー、特支の分野に分かれて対応を行っている。 	<p>人権教育について(担当:前田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任が今年転動してきたばかりの教員で、どのようにして学校の推進計画を立てていけばよいか悩んでいた。 ・前任校が奈良市の学校で、人権教育には力を入れていたようで、現在の俵口小学校の推進計画は、ちょっと時代にあっていないような感じがするが、何を参考にしてグランドデザインを立てればよいかわからないということであった。 ・県が出している方針を持っていたので、県の方針を見直して、俵口小学校の課題を見つけ計画していけばよいのではないかと助言した。
<p>授業懇談 藪田優子先生 教科:社会 (担当:城野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年目の教員で、落ち着いて授業を進めていた。 ・児童が意見交換を行う時に、児童が机の向きを変えて向き合い、相互指名を取り入れるなどし、意見交換が活発に進むように工夫していた。 ・児童から出てきた意見の修正をどの時点で行うのがいいか、今後の学習活動で生かせるように助言を行った。 ・教科書に書かれている内容については、できる限り書かれている文言を使うように指導した。 	<p>授業懇談 佐藤有紀先生 教科:算数 (担当:前田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生でクラスは落ち着いており、しっかり教員のほうを向いて授業にみんな取り組んでいた。教室前方に、「目で聞く」「耳で聞く」「心で聞く」という掲示物が目に入ったが、児童はそれを見て実践しているようだった。 ・体積を求める応用の問題を解いていたが、積極的に手を上げ発表していた。児童たちの姿勢がよく、また手を挙げるときの姿勢もすばらしく、学年の積み重ねがよくわかった。 ・今日の目当てを最初に示し、児童もそれを意識して取り組んでいたが、授業の終わりに振り返りがなかったので、各自の達成度を確認させるため、まとめを行ってほしいことを伝えた。これは全国学力調査の結果からわかった課題でもある。
<p>生徒指導について(担当:城野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に一度「子ども部(人権・特支・生指部会を統合)」を開催し、児童の実態把握と全教職員が一貫した指導ができるように取り組んでいる。 ・生活重点目標を学期ごとに児童におろしているとのことだったが、昨年度末の総括で変更した内容が3学期の重点課題とのことだったので、もっと早い段階で児童に知らせる方法がないか、検討するように助言した。 	<p>児童生徒たちのようす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は落ち着いて活動している。積極的に挨拶してくる児童が多い。 ・昼休みには、多くの児童が運動場に出て体を動かしていた。 ・廊下ですれ違くと、児童のほうからあいさつを行う姿が見られた。休み時間は、外で遊ぶ児童も多く、廊下や中庭などで遊ぶ児童はあまり見られなかった。 ・暑い日だったので、水筒をぶら下げて運動場に出て行く姿も見られた。児童がどのタイミングで水分補給を行っているのかが気になった。

鹿ノ台小学校 学校経営評価シート

6月8日(木)

項目	診断の観点	診断の規準	訪問 ○×	備考	フォロー ○×	
学 校 經 営	教育目標・経営方針	県や市町村教育委員会の指導方針を踏まえた教育目標の設定	学習指導要領、「学校教育の指導方針」等を踏まえた教育目標等を設定している。	○		
		学校の特色や前年度の課題を踏まえた経営方針・重点目標の設定	目指す学校像・児童像・教師像を具体的な姿で示している。 学校の特色や前年度の課題を踏まえて重点目標等を設定している。 学校運営や教育活動を構造化・体系化してグランドデザイン等に示している。	○ ○ ○		
		経営方針や重点目標の共有と発信	学校経営方針や重点目標等を教職員が共有している。 重点目標等を、学校だよりやホームページなどで児童・保護者・地域住民等に発信している。	○ ○		
	校務組織運営	重点目標等の達成に向けた取組	学校の課題や今日的な教育課題に対応するための組織をつくり、具体的に取り組んでいる。	○		
		学年や分掌間等の連携・協力体制	企画委員会や推進委員会等、連絡調整を図るための会議を定期的に行っている。	○		
	学校評価	学校評価の組織的な推進	学校評価委員会等を設置し開催している。	○		
			学校全体で組織的に学校評価を推進している。			
		学校評価の計画的な推進	学校評価の推進計画を作成し、計画的に推進している。			
		学校評価の目標設定	本年度の重点目標等の達成に向けた具体的な目標や方策を評価項目として設定している。			
		学校評価の活用と成果	学校評価をツールとして活用し、学校改善が進んでいる。			
		アンケートの活用	児童や保護者等を対象としたアンケート（授業評価を含む）を自己評価に適切に活用している。	○		
		学校関係者評価の実施	保護者等を含めた学校関係者評価委員会等を設置し開催している。 自己評価の結果を踏まえた学校関係者評価を実施している。	○ ○		
	学校評価の公表	保護者や地域住民等に自己評価の結果を公表している。	○			
		保護者や地域住民等に学校関係者評価の結果を公表している。	○			
地域連携	地域連携	地域連携を推進するための組織を設けている。				
		学校、保護者、地域住民が当事者意識をもって熟議する場を設けている。				
		学校、保護者、地域住民が参画・協働して児童を育てる取組がある。	○			
		保護者や地域住民等に対して、「地域と共にある学校づくり」等の取組を情報発信している。	○			
危機管理	危機管理	具体的に対処するためのマニュアルを作成し、共通理解している。	○			
		避難訓練や安全意識高揚のための取組を計画・実施している。	○			
		食物アレルギー等を有する児童に対して、指導体制や緊急対応の体制を整えている。				
教 育 活 動	学習指導	各教科等の年間指導計画の作成と活用	学習指導要領に基づき、教育目標等を踏まえながら、各教科等の年間指導計画を作成し、活用している。	○		
		基礎的・基本的な内容の定着に向けた取組	基礎的・基本的な知識や技能の習得とその活用を図る取組を計画的に行っている。 指導方法や学習形態の工夫をし、児童が集中して取り組む授業を行っている。	○ ○		
		自ら学び、自ら考える力を培う指導の工夫	問題解決を図る活動を取り入れた授業を行っている。			
		児童の学習状況の把握と適切な評価	各教科等の評価規準を作成している。 授業における児童の学習状況を把握し、適切に評価している。	○ ○		
	生徒指導	重点課題の明確化及び教職員による指導体制	児童の実態を踏まえて重点課題を明確にし、継続的な取組を行っている。	○		
			配慮を要する児童に対して、教職員が連携して指導する体制を整えている。	○		
			指導や支援のできる教育相談体制を整えている。	○		
	教育相談の体制	教育相談の体制	家庭や地域、関係機関等との緊密な連携を図っている。			
			児童や地域の実態を踏まえ、県の「人権教育推進プラン」に基づいて人権教育推進計画を立てている。	○		
			児童・保護者に人権意識を高める多様な取組を計画・実施している。	○		
特別支援教育	特別支援教育の推進体制	特別支援教育を推進するための組織が整っている。				
		特別支援教育推進計画を立てている。	○			
研究・研修	指導力向上や授業改善を図るための研究・研修体制	研究主題及び研究内容・方法を明確に示している。	○			
		全学年で、研究授業・研究協議等を計画・実施している。	○			
		資質向上のための研修の実施	今日的な教育課題や学校の課題に即した様々な研修を計画・実施している。			
当 面 す る 県 の 教 育 課 題	規範意識の高揚	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。	○			
		規範意識の高揚を図る取組	「学校のきまりを守る」等について、具体的な取組を計画・実施している。 いじめに関して実態を把握するとともに、教職員が共通理解の下、いじめの防止・指導に取り組んでいる。 規範意識の高揚に向けて、家庭と連携して取組を進めている。	○ ○		
		体力の向上	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。 体育科の授業で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。 体育科の授業以外で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。			
	学習意欲の向上	学習意欲の向上を図る取組	実態について、教職員で共通理解し、課題を明確にしている。			
			日々の学習指導の中で、課題解決に向けた具体的な取組を計画・実施している。			
			家庭での学習習慣の定着に向けた具体的な取組を計画・実施している。	○		

学校評価について(担当:城野)	学習指導・研究研修について(担当:八代)
<ul style="list-style-type: none"> ・中間評価を11月の学校評議委員会開催後に実施を予定している。 ・「概ね」という文言を使ってしまいが、きちんと数値化した評価が必要である。数値化すれば、傾向がわかる。 ・「学校として」「学校長として」の総括を図りたい。 ・「外遊び」と「読書」のアンケート結果が低くなっているのは、児童の二分化が考えられる。 <p>○学校目標を立てる上で、県、市の教育目標を盛り込んでもらいたい。</p> <p>○アンケートの内容を検討し、次年度につなげやすくしてもらいたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力」を身につけ、学びあう子どもの育成～算数課の学習を通して～を研修主題として2年目の取組になる。 ・6月に2年生、11月に5年生の研究授業を行う予定である。 ・全体公開研修をしない学年は、学年部公開とし、参加できるものが参加できるようにしている。 ・夏季休業中にも講師を招聘して全体研修を行う。 ・提案→計画→実践→評価にとどまらず、修正も入れたサイクルを大切にしている。 ・基礎・基本の定着を図りながら、どのようにして「主体・対話的で深い学び」を目指したアクティブラーニングを取り入れていったらよいか課題のようである。 ・児童は、表現力や主体的な活動が弱い傾向であると報告を受けた。自ら考え、自らの言葉で表現できるような学級の雰囲気をつくり、やり遂げた達成感をたくさん味わえる学級経営を目指しているようである。
特別支援教育について(担当:城野)	人権教育について(担当:八代)
<ul style="list-style-type: none"> ・週に2時間自立活動を全体で行っている。 ・水曜日の1時間目に、ひまわり体育を実施し、感覚統合運動を取り入れている。 ・月に1度、外部から講師を招き、音楽療法に取り組んでいる。 ・今年度から「個別の支援計画」を作成。 ・夏にユニバーサルデザインの授業づくりについて、研究所から講師を招き、研修を行う。 <p>○ユニバーサルデザインの授業は、多くの子どもたちに好影響を与えるので進めてもらいたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権の精神を理解し、人権意識を育てる取り組みを考える」を研修課題として「仲間づくり」「命の大切さ」「国際理解」を柱に取り組んでいる。 ・本校は、関西文化学術研究都市にあり、大学院大学や民間研究所の職員住宅から通う子どもも少なくない。外国籍の子供や帰国子女・全国からの転入生もいる。多様性を認め合い、尊重しながら共に成長しようとしているのが、本校の特色だと言える。 ・学年別の主な取組は、1年生「外国の文化を知ろう」、2年生「グループワークトレーニング」、3年生「高齢者との交流、身近な国のことを知ろう(韓国等)」、4年「点字、アイマスク・車いす体験」「手話」、5年「野外活動」、6年「平和学習」である。 ・「なかまをともに」等の副教材を中心に、各学年の年間計画を立てている。年間の実践を年度末に振り返り、次年度へ向けて毎年見直している。 ・年に1回、「人権」を扱った内容の学習参観を行っている。
授業懇談 道上先生 教科:算数(担当:城野)	授業懇談 堀生力先生 教科:社会(担当:八代)
<ul style="list-style-type: none"> ・分子が「1」の分数の割り算は既習済みである。逆数をかけることも理解している。 ・前回の授業では、児童が意見を出し合える場を設定したが、今日の授業では、先に進むことを重んじた。 <p>○児童の考えを教師が説明するのではなく、児童自身で説明することが、今後、アクティブ・ラーニングやプログラミング教育につながる。</p> <p>○児童のノートの内容の点検のためにも、もう少し机間巡視が必要である。</p> <p>○板書は1時間の授業を振り返るものである。途中で消すのはいかがなものか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りの導入の授業で、グラフを通して、今の時代の朝食と50年前の朝食を比較する学習を行っていた。 ・プロジェクターでパワーポイントを投影しながらの授業であった。一つの資料を効果的に全員で共用することができていた。 ・グラフの読み取りを本時の目標の一つとし、表題や縦軸横軸の読みなどを丁寧に指導されていた。 ・グラフから分かったことや気付いたことを、グループで話し合いながらまとめることにより、誰もが活動に取り組むことができた。 ・今回の子どもたちの気づきを、今後の学習に活用しながら進めると良いこと。似たようなグラフを提示しすぎて、子どもたちが混乱していたので、資料は厳選して授業に活用することなどを助言した。 ・プロジェクターは、各学年で車つきのラックを作り使いやすいように工夫していた。しかし、大型テレビへの接続の方が容易く、画面が明るいと報告と受けた。
生徒指導について(担当:城野)	児童生徒たちのようす
<ul style="list-style-type: none"> ・「廊下の右側を歩こう」「すすんであいさつをしよう」「時間を守ろう」を重点目標に取り組んでいる。 ・月目標を年度当初に設定しているが、児童の実態に応じて、追加している。 ・今年から登校時刻を7時50分からと決め、その時刻に昇降口を開錠している。 ・「いかのおすし」「おはしも」の掲示物を作成し、児童に意味を指導した上で、教室に掲示している。 <p>○今日のように雨上がりの後の運動場の使い方を決めてはどうか。芝生が水を含んでいて、児童の服が濡れていて気になった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が落ち着いた雰囲気でも活動していた。 ・大型遊具で多くの児童が遊んでいたが、高さがあり、雲梯をしている児童に危険を感じた。(校長には連絡済) ・一人一人の児童が元気よく挨拶を返してくれた。 ・清掃活動も、一人一人の児童が真面目に取り組んでいた。 ・どの子どもも自ら進んで気持ちよく挨拶をしてくれていた。 ・昼休みは、多くの子どもたちが元気の外で遊んでいた。運動場が芝生で、ケガをしにくいので、側転をして遊ぶ子がいた。 ・運動場にラインを書くことができないためなのか、ドッジボールなどボールを使った遊びをする子が少ないように感じた。代わりに、大型ジャングルジムや遊具で遊ぶ児童が多かった。 ・昼休みは、図書館で本を読む児童も多いとの報告を受けた。